大阪今昔

随筆

山崎 豊子
吉田三七雄 編

隨筆 大阪今昔

山崎 豊子
吉田三七雄 編

随筆　大阪今昔

発　行　昭和五十五年十二月二十五日©
企　画　鹿島卯女
編　者　山崎豊子　吉田三七雄
発行者　河相全次郎
印　刷　凸版印刷　製　本　富士製本
発行所　鹿島出版会　東京都港区赤坂六丁目5番13号
電話（五八二）二二五一　振替　東京六-一八〇八八三

方法の如何を問わず、全部もしくは一部の複写・転載を禁ず。
落丁・乱丁はお取替えいたします。

0927　ISBN4-306-09283-6　C1095
Printed in Japan

目

次

大阪を語る……堀田庄三
〈対談〉宮本又次……7
私塾と松下政経塾……松下幸之助
〈対談〉奈良本辰也……57
大阪城秘話……岡本良一……85
抜け穴物語
船場（せんば）……山崎豊子……93
島之内界隈……岡田誠三……101
横堀界隈……岡部伊都子……113
瀬戸物祭
赤い灯青い灯……服部良一……121
道頓堀・心斎橋
消えた町「靱（うつぼ）」……吉田三七雄……131

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

戎さんと天神さん……津江寺井　孝夫
〈座談会〉　吉田三七雄　種茂……141
「大阪の文学」を歩く……大谷　晃一……155
昔の帝塚山……庄野　潤三……165
千里今昔……小松　左京……173
国際文化ゾーンと千里の可能性
あとがき……鹿島　卯女……183

題字　堀田　庄三
装幀　道吉　剛
カバー写真　岩宮　武二

随筆 大阪今昔

大阪を語る

対談　堀田庄三
宮本又次

――まず、大阪の産業の発達について、歴史的、具体的にお伺いしたいと思いますので、住友さんとの関連でお話をお願い致します。

宮本　住友さんは江戸時代の初期に大阪に進出してこられた。和泉の堺出身か、とも思われますが、よくわかりません。まず京都におられて、寛永七年（一六三〇）に京都から大阪に本拠を移された。そして大阪の内淡路町におられましたが、水の関係で東長堀川のほとりへこられて、長堀川の末吉橋のあの界隈が住友さんの本拠地になって、そこに銅吹所もございましたから、その頃ぐらいからですね。……その前は抜かして頂いていいと思います。

堀田　住友家は大体京都におったんです。一五九〇年＝天正十八年、住友の親戚の蘇我理右

衛門という人が、初めて銅吹きの事業を京都ではじめたわけなんです。その事業を住友が受け継いで拡げていったのです。

京都におりましたときは、はじめは本屋と薬屋をやっていたんですね。「反魂丹」という薬屋の看板がいまも残っております。本は出版をやっておったらしいです。京都時代の先をさかのぼりますと、平氏の出ですね。どこまで史実がはっきりしているかどうかわかりませんが、葛原親王の末裔ですね。町人になったのは慶長年間。その頃にはすでに蘇我家が銅に関係しておりましたから、住友の銅事業は四百年そこそこになるということなんです。

慶長年間に南蛮吹きわけというものを南蛮人から教わったと言いつたえています。これが中国人であるのか、あるいはオランダあたりの人なのかよくわからない。一説には泉屋という名前は、泉というのは白い水と書くので、「白水」という名前の中国人から教わったという説が俗説となっておりますが、これははっきりしないんです。いずれにしても泉屋という屋号であった。その前本屋をやっていたときは富士屋といったらしいんです。だから銅屋になってからそう名乗ったということは、どうやらたしかだと思うんです。

わが国では貿易の決済をやるときには、金銀のほかは銅でやっておったんですね。私の聞いておるのでは、足尾銅山の銅も住友が扱ったという話があるんですね。そして長崎で貿易

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

の決済につかった。江戸初期には金銀の混ったままの粗銅ですが、それが輸出されていた。それがだんだん金や銀がふくまれているということがわかって、それの吹きわけを教わって粗銅から銀を抜いて輸出をやったのです。

寛永七年ごろ大阪淡路町に移転し、長堀へきたのは寛永年間ですが、別子が見つかったのはそれから約五〇年後、今から二九〇年ぐらい前です。それを持ってきて吹きわけを大阪でやったはずだから、かなり手元の銅を使って吹きわけをやった。この銅の吹きわけは、蘇我理右衛門という住友の親戚がはじめたんですが、その子供の友以を住友の養子に迎えるわけです。そこで初代の政友を家祖と言っておるんですが、蘇我理右衛門をもって業祖とする。そのせがれが、二代目なんですから、従って蘇我系統の人が事業を起したということが言えると思うんです。

銅の合わせ吹き

宮本　住友さんははじめ新興宗教的な

涅槃宗というのを信仰されておられたんですね。それから薬屋さん、反魂丹というのはどこでもございますが、住友のは松浦流本方といいますから、やっぱり九州関係のものじゃないかと思います。南蛮人とかの関係もあったかも知れません。

堀田　その南蛮人というのはだれですか。

宮本　南蛮人というのはポルトガル人とスペイン人です。オランダ人、イギリス人は紅毛人で、紅毛人はあとからきまして、先に南蛮人のほうが日本にきましたのです。旧教徒です。ハックスレーという人から南蛮吹きを教わったという説と、また中国人の白水さんからという説と両方ありますが、白と水を一つにして泉屋になったというのです。しかしやっぱり住友さんは堺など泉系統のほうから出られたんじゃないかと思いますけどね。また「泉」ということばがやはり貨泉・泉貨といって、貨幣のことばですからね。その辺、伝承的になっていますから、はっきりしないんです。桓武平氏から出られた葛原親王二十四世の孫・備中守忠重から住友氏と称したとの記録があります。この住友忠重の流れから、入江土佐守という侍がおりますね。蘇我氏はこの入江氏からでています。後になりましても入江という家は住友家では重要な分流となっております。

堺から出てこられて、南蛮吹きを南蛮人から習ったというけれど、やっぱりそこには創意

工夫があったんじゃないですか。夢のお告げだとかいろいろいいますが、やはり自分でいろいろ工夫して、そういう技術を身につけられて、京都でやっておられた。そして豊臣秀頼が家康の命令で京都東山の方広寺大仏につくった「国家安康」の銘文のある梵鐘がありますね。あれも住友さんがその銅を納入したという説もあります。

しかし大阪の経済がだんだん台頭してきまして、京都の経済をこして大阪の方が経済上より重要になりましたし、それで住友さんも大阪へ移ってこられた。やはり海運の関係、水の関係があるからでしょう。はじめは内淡路町にいられたが、もっと水の便利な場所ということでいまの東長堀の鰻谷に本拠を置かれた。

住友銅吹所跡

しかし住友さんは技術を隠しておくんじゃなしに、広くそういうことをも公開されたから、大阪には住友さん以外にもたくさん銅吹人が出てきました。しかし住友さんはその最大のもので、その鰻谷の場所はいまも少しは俤が残っていまして、この土地は重要なものとされております。計算センターになっていますが、「住友銅吹所跡」という碑が立っています。それから明治十二年に出来た西洋建築の住友さんの邸宅がそこにありまして、この場所もなかなかいいところでした。

堀田　末吉橋という橋が長堀にあったね。その角のところでしたね。

宮本　向こうに末吉孫左衛門という人が住んでいました。あの辺に平野郷町の末吉勘兵衛とか孫左衛門とかいう、御朱印船貿易なんかをやった人の大阪での家があったんです。その人が自分の家の前に橋を架けまして、それで末吉橋なんです。住友さんはその南のほうなんです。島之内になりますが。

堀田　住友が正月に紳士招待会と称して大阪の紳士を呼ぶということがありましてね。住友に呼ばれるということが、一流の紳士になった格付けになるといわれて……だからそういう慣例が長く続いたらしいです。木造の洋館でしたでしょう。

宮本　泉布観という、造幣局にあるのが、洋風建築としていちばん大阪で古いのですが、こ

れは官庁のものですから、私人の宅としてはもっとも古い。しかし屋根瓦を葺いて鬼瓦をつけたりして、日本の大工さんが建てたようです。なにしろあの頃は向こうへ呼ばれるということが、大阪では非常に名誉であるということでした。

そのひとつの例は、伊藤忠兵衛さんが、大阪大学に産業科学研究所を寄附するときに、住友さんが伊藤忠兵衛さんを呼ばれて、同額を出すことになりました。伊藤忠兵衛さんのところはその時分まだそう大きくなかったから住友邸によばれることで感激したらしいです。伊藤忠兵衛さんはこのことを非常に喜んで、男をあげたと伝記にも書いています。それほどあの場所はえらいところだったんです。

堀田　いまは中心から外れてしまいましてね。いまは茶隴山という禅道場が建っています。そして銀行の家族寮が出来ており、向いはコンピューター・センターになって、まったく変わった姿になっています。かつてはそこに川が流れておって、きれいなところでした。

宮本　かつて大阪の川はまだきれいで、泳いだりできました。

堀田　堂島川でボートレースをやっておりましたよ。大阪の高商です。この間、古い人がおってね、優勝すると金貨の十円を住友のお嬢さんからもらったというんです。これは大分古い話だなあと思って聞いていました。

ずい分大阪は変ってしまいましたが、昔は堂島川・土佐堀川のところには各大名の蔵があった。それが堂島という米穀取引所のできた所以なんです。結局、米で俸禄として藩士に分けたあとは、米を金にしたんですね。大阪へ蔵米を運んでくるのがよい。それをやはり取引所的な米市が相場をたてたというので、おそらく東京の蠣殻町より古いんじゃないですか。西のほうの大名はみんなここへ蔵米を持ってきた。それより先は大分古い話ですが、住友は江戸時代に両替商をもやっておった。それと同時に為替を組んでおったんですね。長崎・江戸・大阪の間の為替がそこで行われておったんです。

宮本　大阪の蔵屋敷の跡は、いまではほとんど姿を残していません。ただ唯一のものは、天王

旧住友本邸の慶沢園

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com